

用可能となる訳で、AsCA'92の場をかりて世界の蛋白質結晶学者の方々に、我々の提案に対する御支援をお願いした次第である。

最後に、21世紀はアジアの時代という声もあり、東アジア地域の結晶学者を一堂に会したこの

会議は、放射光利用の蛋白質結晶解析に限らずアジアにおける結晶学全般の発展のために、また結晶学者間の連帯感を高める意味で非常に有意義であったと思われる。

＜研究会報告＞

第1回アジア結晶学連合会議 —放射光を用いた無機物の研究について—

萩谷 健治 (姫路工業大学 理学部)

標記会議 (AsCA '92) は、1992年11月13～16日を会期として、シンガポールに於いて開催された。これは、アジアで開催される初めての地域国際結晶学会議である。次の開催に向けてのステップになるためにも、この会議を成功させる必要があったと聞いている。欧米の国々を含む21カ国から約300名ほどの参加者があり、このうち日本からは、この会議が今年度の日本結晶学年会を兼ねている事もあって、約180名にも上る大勢の人が参加した。この結果、多少会場が手狭になったという印象を受けたほどであり、冷房が壊れたかと錯覚させるほどの熱気に包まれた中で、質疑応答が行われていた。このように次回開催に向けてのはずみがついたと思われるに十分な盛況ぶりであった。

発表件数は約260件 (内、口頭発表が約70件) であった。この内、放射光を用いた無機物の研究の発表件数は、要旨集を参照すると約20件ほどであり、この多くが日本からの参加者によるもので

あった。研究内容としては、「表面・界面・薄膜」、「異常分散の利用」、「EXAFS」、「磁気散乱」、「微小単結晶法・粉末法」等に関するものである。昨年の日本結晶学会年会に比べて (海外で行われたにもかかわらずという見方もあるが) 発表件数の増加はほとんどなく、また研究内容に関しても特に変わったという印象は受けなかった。しかしながら、これらの事から放射光を利用した研究が発展していないと感じたわけではもちろんない。これは単に、自分の理解力の無い事や熱心に聞いていなかった事を露呈しているだけであり、実際は、このような研究が着実に根付き、定期的に結果が出るようになった証拠である。

オーストラリアからの参加者からは、放射光利用に対する期待と熱意が感じられる発表が行われていた。これは、オーストラリアが高エネルギー物理学研究所の放射光施設に自国の専用ビームラインを建設している事を反映したものである。前述したように、日本に於ける放射光利用は現在落

ちついているような印象を持ったが、何年後かに始まる次世代の放射光実験施設の利用が、これと同じ効果を引き起こすであろうと期待し、今後の学会の発展に思いを馳せた次第である。

次に他のアジアの国々からの参加者による発表に関して受けた印象について述べる。それは、放射光の利用により更に良いデータを得る事ができると思われるものが、幾つかあった事である。この事は、放射光利用に対して地理的・時間的に不便さを感じていた私に、彼等に比べれば非常に恵

まれた環境にいるという極めて当り前の事を再認識する場を与えてくれた。近ごろは、放射光の恩恵を初めて受けた時の感動を忘れていたが、本会議に参加した事は、私にとって放射光実験に対する姿勢を見直す機会とも成った。

最後は、本会議に参加する際に「発表のための練習」を怠り「練習のための発表」をしてしまったために、他の参加者に損害を与えた事を深く反省し、またこのような拙文を書く機会を与えて下さった方々へ感謝したいと思います。

◀研究会報告▶

第10回PFシンポジウム報告

実行委員長 柿崎 明人 (東京大学物性研究所)

昨年12月4日、5日の両日、第10回PFシンポジウムが高エネルギー研究所で同放射光実験施設とフォトンファクトリー懇談会の共催で開かれた。昨年はフォトンファクトリーの放射光発生10周年にあたり、PFシンポジウムは10周年記念シンポジウムの後で開催されることとなった。このため日程も1日半とし、プログラムも記念シンポジウムで取り上げられる話題と重複しないよう配慮したものとなり、従来のシンポジウムとは若干趣の異なるものとなった。参加登録人数は206名であった。

初日のプログラムは、

(1) 施設報告

(2) ポスターセッション

(3) PF懇談会報告、同窓会

(4) 親睦会

である。放射光施設の現状と将来については、既に記念シンポジウムで一部報告されていたため、予定よりもかなり短い期間で終わり、ポスターセッションは予定よりも早くスタートした。PF懇談会報告、同窓会の後の親睦会はポスターセッションの会場で行われた。参加者は比較的少なかつたもののポスターを前にして議論するなど、親睦だけでなくサイエンスの議論の場となることができ有意義であったと思う。

2日目のプログラムは、